

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●安田記念はシックスペンスが優勝

6月7日(日)に行われた安田記念(G I)ではシックスペンス(牡5歳/美浦・田中博康厩舎)が優勝、G I初制覇を果たしました。鞍上の武豊騎手は57歳2か月24日でのG I勝利で、これは横山典弘騎手が2024年日本ダービーをダノンデサイルで制した際の56歳3か月4日を更新する、JRA・G I最年長勝利記録となります。

●エフフォーリアが新種牡馬初勝利をマーク

6月7日(日)の3回東京2日・第5レースとして行われた2歳新馬戦ではジョドレルバンクが1着となり、同馬の父エフフォーリアは、本年産駒がデビューする新種牡馬としてはJRA初勝利をあげました。

●キングジョージにマスカレードボールら予備登録

現地時間7月25日(土)にイギリス・アスコット競馬場で行われるキングジョージVI世&クイーンエリザベスS(G I)に、日本からマスカレードボール(牡4歳/美浦・手塚貴久厩舎)とヴェルテンベルク(牡6歳/栗東・宮本博厩舎)の予備登録がありました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●フィンガーが東京ダービー(大井)で二冠達成

東京ダービー(Jpn I、3歳、6月10日、大井、2,000^円)は、1コーナー手前で先頭を奪った2番人気のフィンガー(戸崎圭太騎手、牡、父ガンランナー)が、1番人気のシルバーレシオを1馬身1/4差で退けて羽田盃に次ぐ二冠を達成。リアライズグリントが3着、3番人気のロックターミガンが4着と、4頭出走したJRA所属馬が上位を独占、地方最先着の5着はゴッドフェンサー(兵庫)でした。

●東海優駿(名古屋)はアストラビアンコ【各地の主要3歳重賞】

東海優駿(6月4日、名古屋、2,100^円)は、逃げたアストラビアンコ(牡、父バゴ)が道中気難しさを見せて一旦は後続に迫られながらも、2着馬に2秒1の大差を付け、単勝1.1倍の支持に応じて4度目の重賞勝ち。九州優駿栄城賞(5月31日、佐賀、2,000^円)は、序盤好位から1コーナーで2番手に進出した3番人気の青森県むつ市産馬カシノアミュレット(騾、父タリスマニック)が、ゴール前で猛追した単勝1.2倍で圧倒的人気のサキドリトッケンをアタマ差抑え、初の重賞制覇を果たしています。

●タマモフリージアらが出走、6月17日の関東オークス(川崎)

関東オークス(Jpn II、3歳牝馬、6月17日、川崎、2,100^円)は、全日本2歳優駿2着のタマモフリージアが中心、以下ジュワネング、ペンダント、アンジュルナ(浦和)、フルールドールの順に有力視されます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G 1英ダービー～クリスマスデーが制す

現地6月6日にイギリスのエプソム競馬場で行われたG 1英ダービー(3歳牡牝、芝2,410^m)は2番手で流れに乗ったクリスマスデー(牡3歳、父キャメロット)が2馬身3/4差で優勝しました。なお、1番人気に推されたベンヴェヌートチェッリーニにはゲートが開く直前および開いた瞬間に左後肢がゲート内の足場の上に乗ってしまうアクシデントが発生。これにより他馬と対等な条件でのスタートが妨げられ、指示通りに先行することができなくなったことが勝機に重大な影響を及ぼしたと判断されて“ノンランナー”(=競走に参加していないものとみなす馬)とされました。勝ったクリスマスデーは昨年10月のG 3エアフィールドS(芝1,800^m)で重賞初制覇。その後、今季初戦となった4月のG 3バリーサクセスS(芝2,000^m)も制して重賞連勝となりましたが、続く前走5月のG 2ダンテSは3着に終わっていました。鞍上のR.ウィーラン騎手は英ダービー初制覇。管理するアイルランドのA.オブライエン調教師は4連覇で12勝目です(ともに自身が持つ最多記録を更新)。

●G 1ベルモントS～ゴールデンテンポが再び追い込み決める

一昨年、昨年と同じく、改修工事中のベルモント競馬場から同じアメリカ・ニューヨーク州のサラトガ競馬場に舞台を移し、距離も通常の2,400^mではなく2,000^m(ダート)で6月6日に行われたG 1ベルモントS(3歳)は、J.オルティス騎手が手綱を取ったゴールデンテンポ(牡3歳、父カーリン、C.ドゥヴォー厩舎)が最後方からの追い込みを決めて優勝しました。1馬身1/4差の2着にG 1フロリダダービー優勝、G 1ケンタッキーダービー7着のコマンドメント。勝ったゴールデンテンポは5月のG 1ケンタッキーダービー(ダート2,000^m)で最後方から追い込んで優勝。その後、米三冠の2戦目にあたるG 1ブリークネスSを回避して、ここに臨んでいました。